令和８年度　第２回愛媛支部評議会の議事概要

開　催　日	令和８年 10 月 23 日（金）　14：00～15：30
開催場所	ホテルマイステイズ松山　３階　ドゥエミーラ
出　席　者	大政評議員、岡村評議員、小林評議員、竹村評議員、藤田評議員、守谷評議員 （五十音順）
議　題	

１．2027（令和９）年度 平均保険料率について
２．中期戦略プラン及び支部戦略プランについて
３．2027（令和９）年度　愛媛支部事業方針（案）について

議事概要
（主な意見等）

事務局より各議題について資料に基づき説明。
評議員からの質疑・意見等は以下のとおり。

１．2027（令和９）年度 平均保険料率について

（被保険者代表）
今後５年間の収支見通しや医療費が増加している状況を考えると、平均保険料率 10%を超えないようにするために相当な努力を重ねていることが窺えることから、引下げは難しいと感じる。加入者や事業主もできることがあると思うため、保険料率が 10%を超えないよう協力していきたい。

（被保険者代表）
2010 年度以降の準備金残高は堅実に増加しているが、今後 15 年間の試算ではすべてのケースで右肩下がりとなっている。準備金残高が急増した 2012 年度時点の見通しはどうだったのか。当時、準備金残高が右肩下がりになる見通しであったにもかかわらず、現在 7.2 月分の準備金残高が積み上がっている状況なのか。

（事務局）
2012 年度は、財政健全化の特例措置として 2010 年度より暫定的に国庫補助率が 13%から 16.4%に引き上げられた。その後、国や関係方面への働きかけを行い、当初３年間の財政特例措置が２年延長された。更に 2015 年の医療保険制度改革法の成立により、恒久措置として国庫補助率が 16.4%になったことや保険料率 10%を維持してきたことで、財政が安定したことが黒字基調になった要因だと考える。現状、様々な不確定要素があり、準備金残高がどのように減少していくのか不明である。例えば、令和８年６月の診療報酬改定によって、一人当たり医療費がどれほど増加するのか現時点では予測できない。また、賃金水準については、協会加入事業所の大半を占める被保険者数 10 人未満の中小企業は、大企業の賃金水準に追い付いていないこともあり、保険料収入の見通しも不透明である。今後の動向を注視していく必要がある。

（被保険者代表）
今後 15 年間の試算において、いずれのケースも将来的には財政状況が右肩下がりとなっていることを踏まえると、保険料率を引き下げることは難しいと感じるため、平均保険料率は 9.9%を維持できればと考える。

（議長）
準備金残高の試算年数を、昨年度と同様の 10 年間ではなく 15 年間としたのはなぜか。

（事務局）
65 歳以上の高齢者人口がピークとなる 2040 年代前半を見据えて、2040 年まで含めた 15 年間とした。

（議長）
今は変数要素が非常に多く、様々な事柄の見通しが不透明であることから、健康保険制度の安定を求める声が多数だと考える。9.9%という数値は政策的な意図や若年層に配慮して設定されたと予想するが、引き続き 10%を超えないことが重要。

（学識経験者）
国庫補助率引下げの要因となる可能性があるなら、平均保険料率は変更しないほうがよいのではないか。

（議長）
保険料率を引き下げるべきという意見はないため、保険料率が 10%を超えないよう、9.9%維持することを本評議会の意見としたい。

２．中期戦略プラン及び支部戦略プランについて
（被保険者代表）
健康経営の推進について、支部幹部職員による事業所への訪問や、事業主に働きかけることは効果的であると考える。中小企業では、従業員が健康経営に取り組もうとしても、事業主の同意が得られないと実施は難しくなる。また、中小企業は何らかの団体に所属していることが多いため、所属団体から話があると健康経営に参加しやすくなると思う。私自身、法人会主催の協会職員が講師を勤めた「健康経営セミナー」を受講したことがある。

（事務局）
今年度、法人会で「健康診断の結果の見方」をテーマとしたセミナーを実施した。来年度は、愛媛県の健康づくり担当部署とも協力しながら、取組を進める予定である。

（学識経験者）
愛媛県は全国と比較して血圧リスク及び血糖リスク保有率が高いとされていることから、健診結果に基づく受診勧奨を実施する際は、一律の内容ではなく、血圧・血糖のリスクを中心に複数項目のリスク該当者には警告を強める等の工夫をして実施してはどうか。

（事務局）
ご意見を参考に工夫して実施したい。

（学識経験者）
愛媛支部の課題として挙げられている血圧リスク保有率は減少傾向にあるとのことだが、血糖リスク保有率とともに、全国と比較して高い状況が続いている。これまでに高血圧対策として血圧手帳の配付事業等を実施していたと記憶しているが、更なる改善に向けた具体的な施策案があれば教えてほしい。
また、中期戦略プランで、健康づくり、予防、健康増進及び健康維持に重点を置くことは非常に重要だと考える。現状、医療費の増加に賃金の上昇が追い付いていないため、医療費を抑制しないと保険料率は下がらないと考える。したがって、医療費を削減するためには、健康づくりの取組を通じて健康維持及び予防を実施することで、加入者に健康でいてもらうことが重要。健康づくりを中期戦略プランの中心に据えていることは、協会のあるべき姿だと考えるため、今後の取組に期待している。

（事務局）
血圧リスクに関する施策について、愛媛県や生命保険会社等と協力し、データを活用しながら進めていきたい。まだ具体的な施策は決まっていないが、愛媛県から大学の文化祭で高血圧対策に関するブースの出店依頼があったので、協力したいと考えている。

（事業主代表）
私自身、健康に関する事業を経営しているが、健康に関する知識が十分ではない人が多く感じる。協会から働きかけるのもよいが、自ら学び、自ら予防できるように教育することも必要だと考える。就業者にとっては健康が一番であり、特に松山市は個人事業主が多く、事業主が倒れると経営が立ち行かなくなるため、前向きに検討してほしい。
また、中期戦略プラン（案）における３年間の主な取組について、非常に良いものだと思うが、現状では個人への健診案内や受診後のフォローアップはどのように実施しているのか。

（事務局）
主に事業所を通して、健診案内や特定保健指導の利用勧奨等を実施している。将来的には、けんぽアプリの機能を段階的に拡充させることで、健診案内や健診予約、健診受診後のフォローアップ等、個人の特性に合わせたアプローチを行う予定としている。けんぽアプリを積極的に活用し、個人へのアプローチを強化したい。

（事業主代表）
事業所数が多いので難しいと思うが、まずはけんぽアプリの周知を積極的に実施するべき。

３．2027（令和９）年度　愛媛支部事業方針（案）について

（被保険者代表）
前回の評議会において、愛媛支部で使用している SNS は LINE のみとのことだったが、変わりはないのか。また、愛媛支部だけでなく全国的にも同様の状況なのか。

（事務局）
LINE 以外の SNS を導入している支部もあるが、愛媛支部では、全支部で導入している LINE のみを使用している。LINE は、加入者個人とつながる重要な広報ツールと位置づけ、毎週情報を発信しているが、今後、段階的に機能拡充を進めるけんぽアプリについても、より一層積極的に登録を促したい。

（学識経験者）
ラッピング電車を活用した広報について、あわせて電車内でも広報を実施することで、より高い効果が期待できる。車内での動画放映や広報物の掲示など、電車内の広報媒体も活用してはどうか。

（事務局）
計画当初は、電車内での動画放映など車体全体を活用した広報を検討していたが、使用可能な車内の広報媒体が限られていたことや費用対効果等を踏まえ、車体ラッピングのみとした。しかしながら、車体全体を活用することで、広報媒体としてのインパクトも期待できると考える。ご意見を踏まえ、改めて委託業者に確認の上、検討したい。

（学識経験者）
ホテルや結婚式場等を活用した集団健診の実施について、次年度も継続予定となっているが、今年度はどのように実施するのか具体的に教えてほしい。

（事務局）
現在、他支部の事例を参考にしながら、会場等の情報を収集しているところである。

特 記 事 項

・傍聴者なし
・次回評議会は、令和９年１月に開催予定。